

様式第6号（第6条関係）

（表）

政務活動費収支報告書

令和7年 4月 28日

明石市議会議長

辰巳 浩司 様

会 派 名 スマイル会

代 表 者 名 家根谷敦子

経理責任者名 家根谷敦子

明石市議会政務活動費の交付に関する条例第7条第1項の規定に基づき、下記のとおり令和6年度政務活動費収支報告書を提出します。

1 収入

（単位：円）

科 目	決 算 額	摘 要
政務活動費	960,055	（決算利息 55円含む）

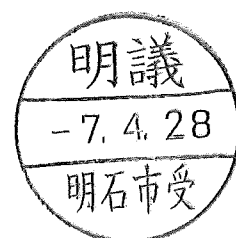
2 支出

（単位：円）

科 目	決 算 額	摘 要
研究研修費	438,700	視察代等
資料作成費	48,298	コピー機使用料
資料購入費	880	書籍購入
広報広聴費		
要請・陳情活動費		
会議費	19,000	手話通訳者への謝礼
人件費		
通信運搬費	37,118	電話代等
備品費	178,200	コピー機リース代
消耗品費	69,499	文房具・コピー用紙等
計	791,695	

3 収支差引額

168,360円



(裏)

4 活動の成果

今年度は、第19回全国市議会議長会研究フォーラム in 盛岡へ出席しました。今回の研修フォーラムでは、主権者教育は、子どもの頃から民主主義の仕組みを学ぶ体験をすることの機会を増やし、小学校でも、中学校でもまた違う経験を何度も継続し経験をする仕組みを作っていくことで、育まれていくと考える。また、主権者教育で議会に関わる役割については、議会の議員が学校に出向き、議員自身の話をして子どもたちと触れ合い意見を交わす体験は、子どもたちにとり社会の大人を身近に感じる事で、自分の未来を想像できる機会を作ることとも将来の地方自治を担う子どもたちに対する主権者教育の取組になると参考になり、今後の課題であると感じました。

また、第86回全国都市問題会議では、二日間にわたり、「市民の一生に寄り添う都市政策」やパネルディスカッション「健康づくりによるまちづくり」といった地域社会に関する取組について学んだが、年齢問わず子どもから高齢者まで様々な人が関わっている子ども食堂や高齢者・シニア・一人になった方など他世代が集うみんなが集う居場所などに専門職や、就職支援・生活相談支援なども入り、みんなが安心して集えるの居場所づくりを重層的に町ぐるみで支援することが必要で、これからは行政だけでなく地域もあわせて見守る官民連系が大切になってくることが分かり、大変参考になった。

毎年、年二回参加している障害者の自立の政治参加をすすめるネットワークは、夏のさいたま大会と大牟田大会へ参加しました。特に、大牟田大会では、大牟田市民体育館が、おおむたアリーナとして新設され、障害者、高齢者にも配慮のある施設となっており、視察をさせていただき、本市でも様々な施策推進や建設時には当事者が入って議論をする場が増えている。今後も引き続き当事者目線での意見の聴取や、検討を行っていくことの必要性を感じ、大変参考になりました。

その他、書籍購入や会派室での基本的な電話代等、手話通訳者への謝礼（会議費）などで使用致しました。より一層市政に反映できるように努めます。